

2023年3月期
第2四半期 決算説明会資料

2022年10月27日

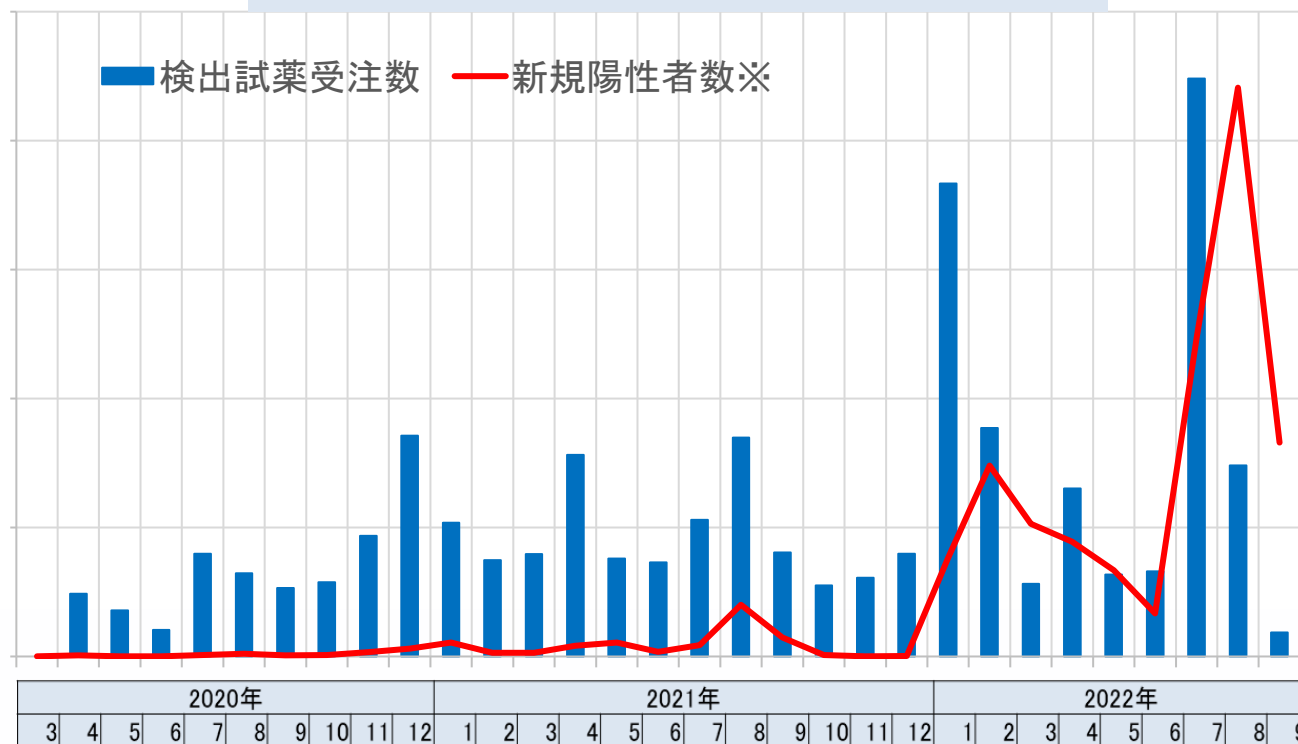
栄研化学株式会社
(証券コード: 4549)

1. 2023年3月期 第2四半期決算概要
2. 2023年3月期 第2四半期トピックス
3. 2023年3月期 通期連結業績予想・重点施策

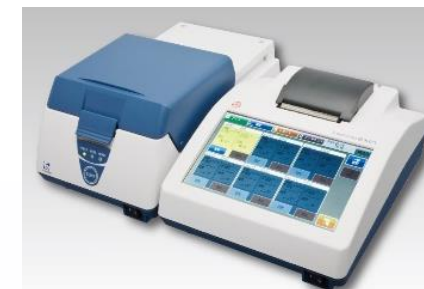
■ 新型コロナウイルス検出試薬関連

- LAMP法を用いた検査試薬の安定供給により新型コロナ感染対策に貢献
- 主に病院施設を中心に状況に応じた需要に対応

— 新型コロナウイルス検出試薬受注状況 —



Loopamp 新型コロナウイルス2019 (SARS-CoV-2) 検出試薬キット



リアルタイム濁度測定装置 LoopampEXIA

2023年3月期 第2四半期決算概要

■ 2023年3月期 第2四半期累計 連結業績

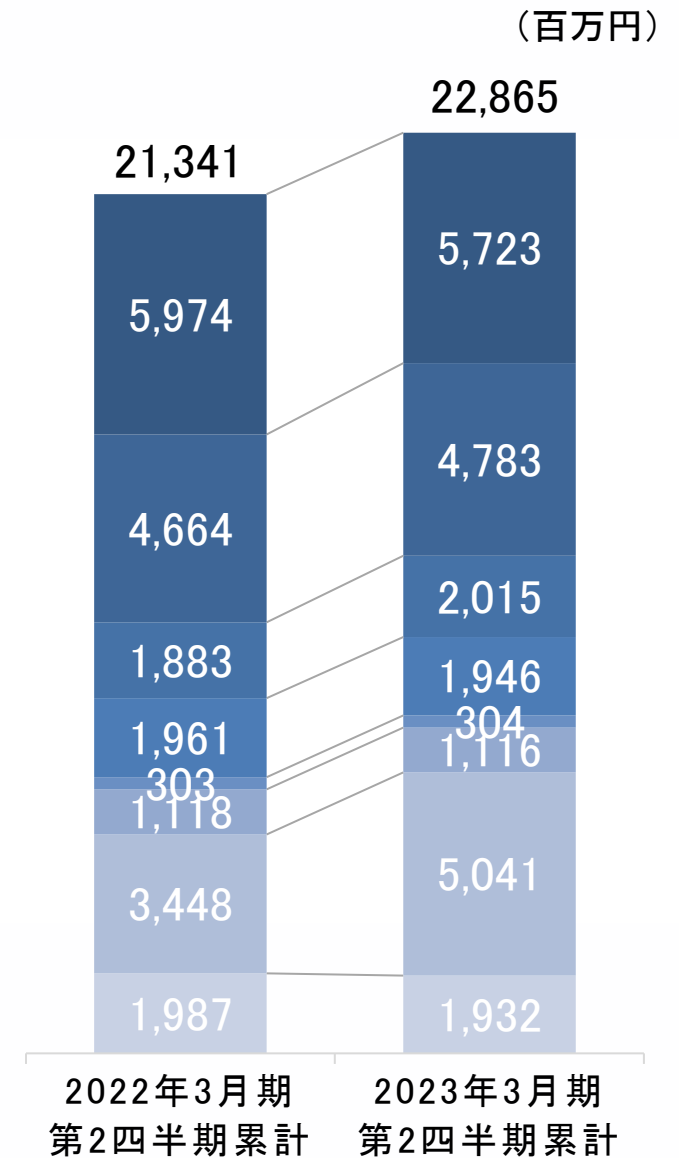
(百万円)

2023年3月期 第2四半期累計				
	実績	構成比	対前年同期増減	
売上高	22,865	100.0%	1,523	107.1%
(うち海外向け売上高)	4,412	19.3%	△ 225	95.1%
営業利益	5,656	24.7%	825	117.1%
経常利益	5,721	25.0%	824	116.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,321	18.9%	655	117.9%

- 売上高・営業利益ともに**増収増益**
 - ✓オミクロン変異株(BA.5)による第7波により新型コロナウイルス遺伝子検査試薬の需要が急増
 - ✓一時的な LAMP法の特許料収入増
 - ✓海外売上高は一部地域の在庫調整の理由から減収
 - ✓売上構成比率(プロダクトミックス)の変化等により増益

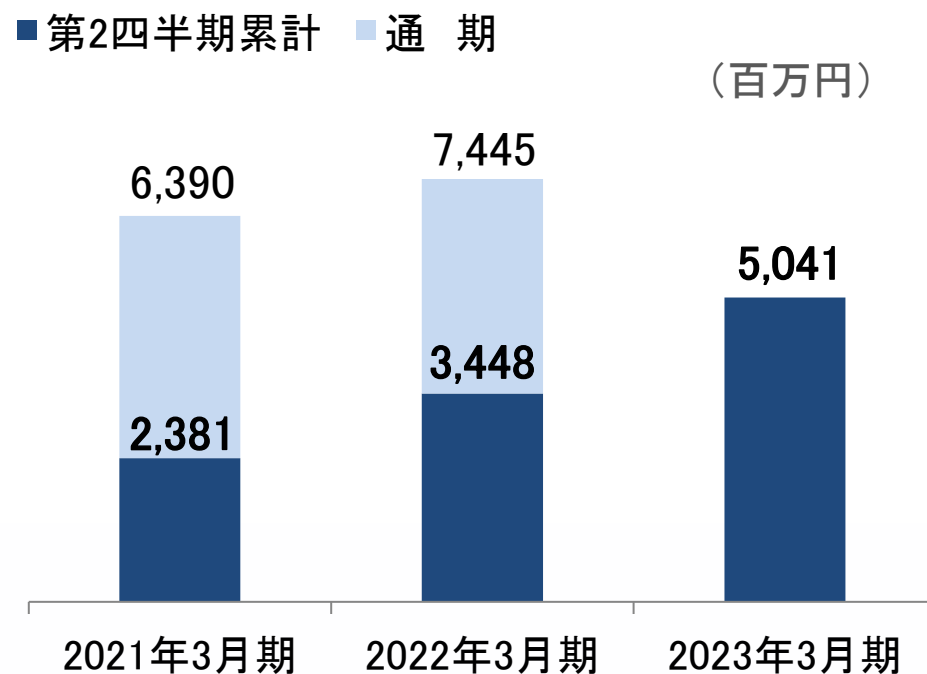
■セグメント別売上高

	(百万円)		
	2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	前年同期比
便潜血検査用試薬	5,974	5,723	95.8%
免疫血清検査用試薬 (便潜血検査用試薬除く)	4,664	4,783	102.6%
尿検査用試薬	1,883	2,015	107.0%
微生物検査用試薬	1,961	1,946	99.3%
生化学検査用試薬	303	304	100.6%
器具・食品環境関連培地	1,118	1,116	99.9%
遺伝子関連(装置含む)	3,448	5,041	146.2%
医療機器関連(遺伝子以外)・その他	1,987	1,932	97.2%
合計	21,341	22,865	107.1%



■セグメント別売上高 — 遺伝子関連(装置含む)

- 新型コロナウイルス検出試薬の売上は第7波により前年同期比で増加
- TB-LAMPのアクションプログラムが再開され、普及拡大
- 特許料収入: 1,305百万円 (前年同期実績: 501百万円) 一時的なLAMP法の特許料収入増



Loopamp新型コロナウイルス2019
(SARS-CoV-2)検出試薬キット



リアルタイム濁度測定装置
LoopampEXIA

当社独自技術LAMP法を用いた、医療、食品、環境など幅広い分野に展開する遺伝子検査関連製品
TB-LAMP(結核検査)は2016年にWHOの推奨を取得し、途上国向けに展開中

■セグメント別売上高 — 便潜血検査用試薬・尿検査用試薬



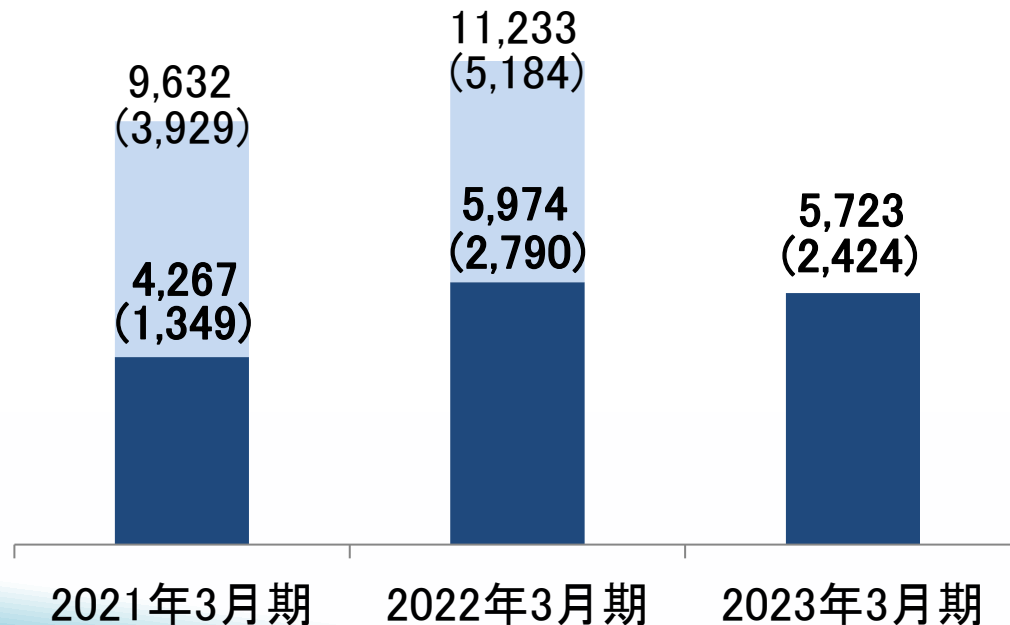
- 便潜血検査用試薬：国内はコロナ前の水準までほぼ回復するも、海外は欧州におけるコロナ影響による在庫調整により減収
- 尿検査用試薬：国内の健診市場・外来患者数とも回復傾向、シスメックス(株)向け販売順調

便潜血検査用試薬

(百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通 期

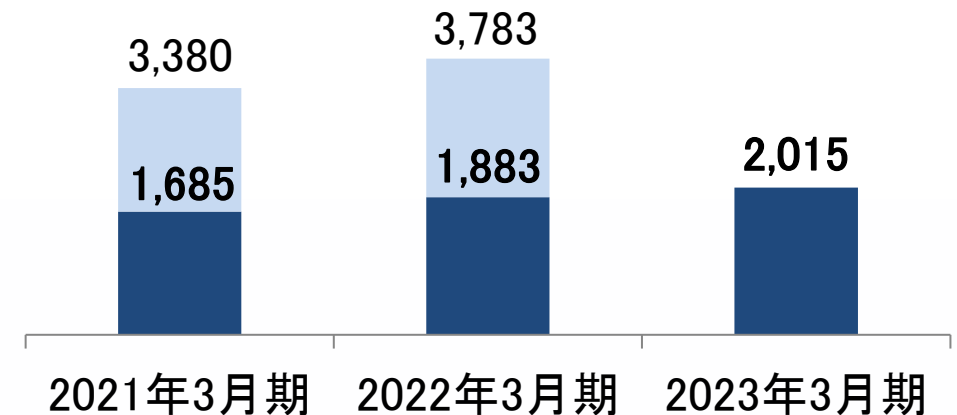
()内:海外売上高



尿検査用試薬

(百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通 期



■セグメント別売上高 — 免疫血清検査用試薬・微生物検査用試薬

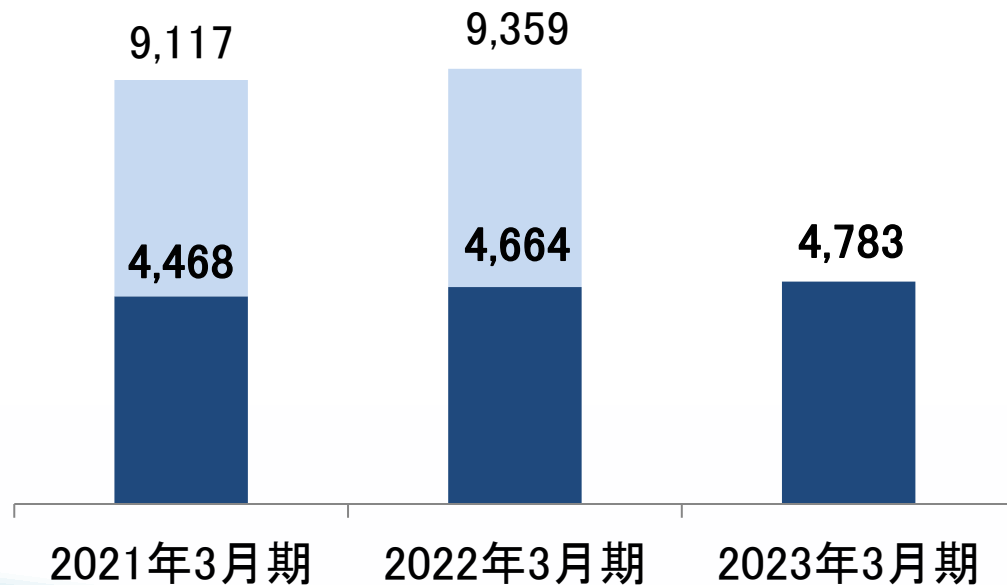


- 免疫血清検査用試薬：外来患者数が回復傾向、AIAの新型コロナ抗原/抗体検査試薬が増加
- 微生物検査用試薬：新型コロナウイルス検査の影響を受け、その他の感染症検査数減少により減収

免疫血清検査用試薬

(百万円)

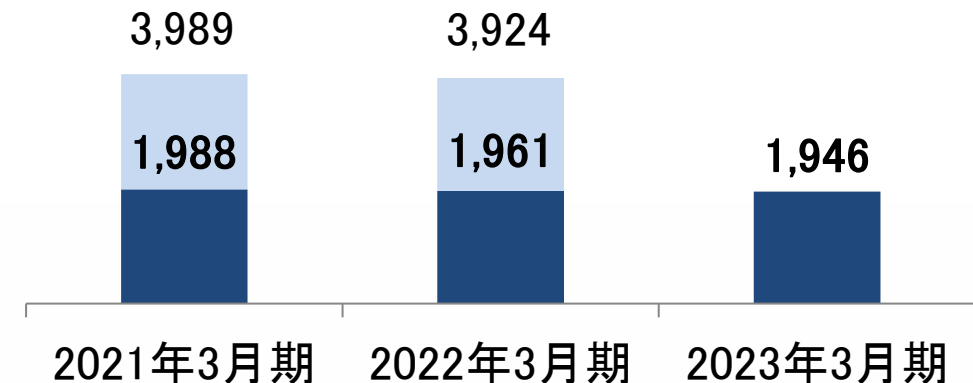
■ 第2四半期累計 ■ 通 期



微生物検査用試薬

(百万円)

■ 第2四半期累計 ■ 通 期



■ 海外向け売上高

【便潜血検査用試薬】

- ✓ 欧州は新型コロナの影響による在庫調整の継続
- ✓ 米国の受注は順調であるが出荷タイミングにより減収

成長ファクター

- 郵送検診、WEB検診、薬局検診、内視鏡トリアージの普及による市場の拡大
- 米国における化学法から免疫法への切り替え促進
- 新規テンダーの獲得

【カルプロテクチン】

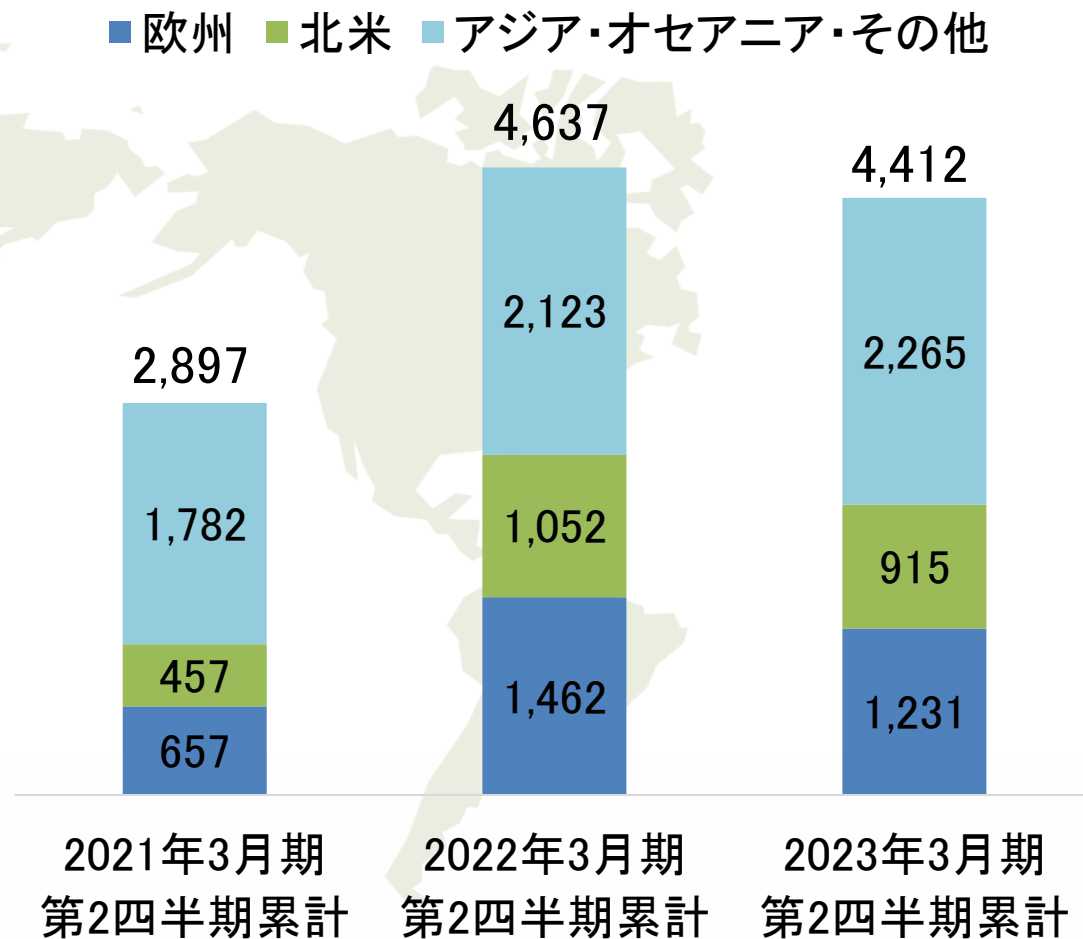
- ✓ 欧州、中東の数か国で採用決定

【尿検査用試薬・装置】

- ✓ シスメックス(株)向けの販売が増加※

※海外向け尿検査用試薬・装置の売上はアジア地域に含む

(百万円)



2023年3月期 第2四半期トピックス



■トピックス(2022年4月～10月)

製品関連トピックス

- 新型コロナウイルス感染症への対応
- インフルエンザウイルスキット『Exdia EKテスト Influenza A+B』発売
- 包括的遺伝子変異検査システムの薬事申請中
- 尿試験紙の製造設備の増強(2024年度稼働予定)

その他トピックス

- EIKEN ROAD MAP 2030および新中期経営計画策定
- 新研究棟竣工、10月本格的稼働開始
- カーボンニュートラルに向け「とちぎふるさと電気」導入
- NTDs(顧みられない熱帯病)制圧にむけた「キガリ宣言」に署名

トピックス 高感度イムノクロマトシステム『Exdia EKテスト』シリーズ発売

- 従来のイムノクロマト法に比べて**高感度**に、標的とする抗原の検出が可能な装置および専用試薬
- 病院における簡易検査の精度向上に貢献

2022年3月発売



移動式免疫蛍光分析装置
『Exdia TRF プラス』



『Exdia EKテスト COVID-19 Ag』

2022年4月発売



『Exdia EKテスト Influenza A+B』

1本のスワブ検体から新型コロナウイルスとインフルエンザA/Bの
抗原検査が可能

■トピックス 包括的遺伝子変異検査システム開発状況

包括的遺伝子変異検査システム (MINtS) …コンパニオン診断システム
(Mutation Investigator using the Next-era Sequencer system)

【特長】

- 肺癌における複数遺伝子異常の一括検出・解析システム
- 次世代シーケンサー (NGS) で一挙に検査、薬剤選択が可能
- 組織だけでなく、**細胞診検体**でも検査可能



薬事申請中

■トピックス 新研究棟本格稼働開始(2022年10月)



総投資額
41億円

新研究棟外観（正面）



総合研究センター全景

【総合研究センター】

- 成長戦略の具現化
 - 「がんの予防・治療への貢献」、「感染症撲滅・感染制御への貢献」、「ヘルスケアに役立つ製品サービスの提供」を実現するための基盤技術の創造、付加価値の高い製品開発、品質・コストを追求した生産技術の確立
- 新たな情報と技術の集結によるブレイクスルー
 - オープンイノベーション・分散していた研究所の集約による創造性の向上

2023年3月期 通期連結業績予想・重点施策



■ 2023年3月期 通期連結業績予想

下期業績予想の前提条件

- ▶ 新型コロナ遺伝子検査試薬は、感染状況によらず手術前検査等の一定需要を見込む
- ▶ 売上構成比率の変化による原価率の上昇(上期比較)
- ▶ 計画通り将来の成長に向けた投資の継続(研究開発費計上の下期集中)
- ▶ 物価高騰による費用の増加

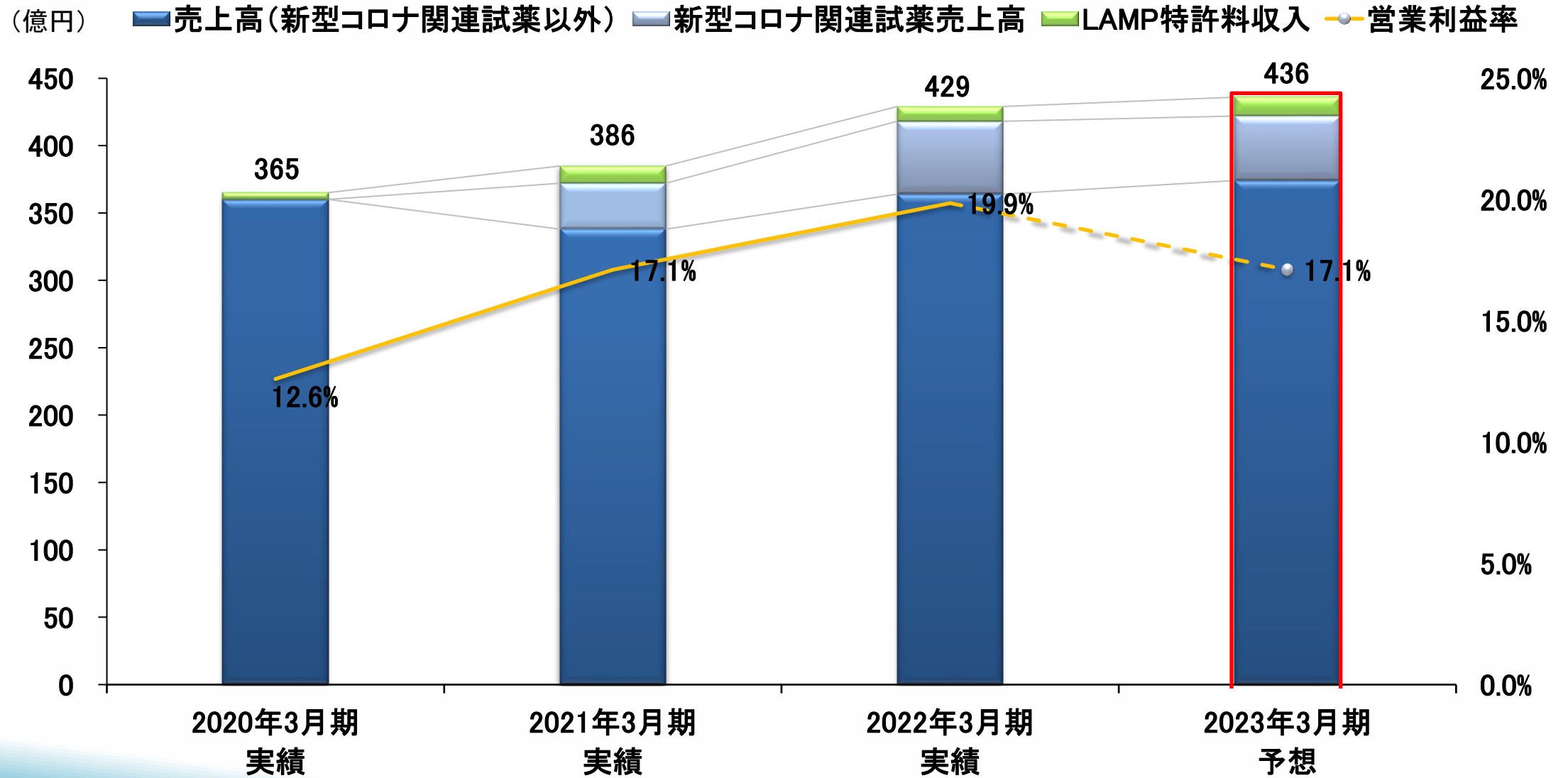
(百万円)

2023年3月期 通期連結業績予想 *9月20日上方修正

	金額	構成比	対前期比
売上高	43,600	100.0%	101.4%
(うち海外向け売上高)	8,870	20.3%	100.0%
営業利益	7,470	17.1%	89.1%
経常利益	7,530	17.3%	88.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,800	13.3%	93.3%

※新型コロナの感染状況、医療・検査体制の変化などにより検査需要は大きく左右されます
今後の業績動向と経費の発生状況を踏まえ業績予想に変更が生じた場合は速やかに開示いたします

■ 通期連結業績の推移



■ 中期3か年の注力分野と重点施策



がん

がんの予防・治療への貢献

個別化医療への貢献

- コンパニオン診断システムの上市

がん検診の普及とがん遺伝子検査技術開発

- 大腸がん検診受診率向上
- 便中がん遺伝子検査の開発

- ABC分類のグローバル展開

感染症

感染症撲滅・感染制御への貢献

TB、マラリア、NTDsの撲滅

- 開発途上国への診断薬普及、脅威となる感染症のモニタリングと迅速な対応

様々な感染症への対応

- 高感度免疫クロマトシステムの展開
- 感染症項目の充実

- 大規模病院向け薬剤感受性検査システム

ヘルスケア

ヘルスケアに役立つ製品・サービスの提供

遠隔診療への対応

- 郵送検診、内視鏡トリアージ検査の普及・拡大

- Web健診受診システム等の提供

炎症性腸疾患(IBD)への対応 (モニタリングからスクリーニングへ)

- 便中カルプロテクチンの展開

認知症予防

- 認知機能スクリーニング検査の普及

■大腸がん検診分野の戦略

検診受診率の向上

受診方法の拡張

医療アクセスの不便な地域での検診

検査アクセスの向上



郵送検診



オンライン検診



次世代便潜血検査の開発



郵送検診に対応した
受診勧奨アプリの開発



検体を安定化する
試薬の開発

様々な国での
輸送環境に対応

確実な大腸がん
検査の実行

検査精度の向上

患者、医療機関の負担大

欧州での内視鏡キャパシティ不足

付加価値の向上



より初期状態
のがんの検出



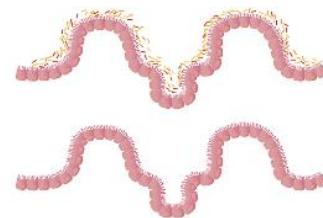
正診率の向上



高精度な検査技術の開発



miRNA
メチル化DNA



腸内細菌叢

内視鏡検査
対象者の絞り込み

患者負担の軽い
検査の開発

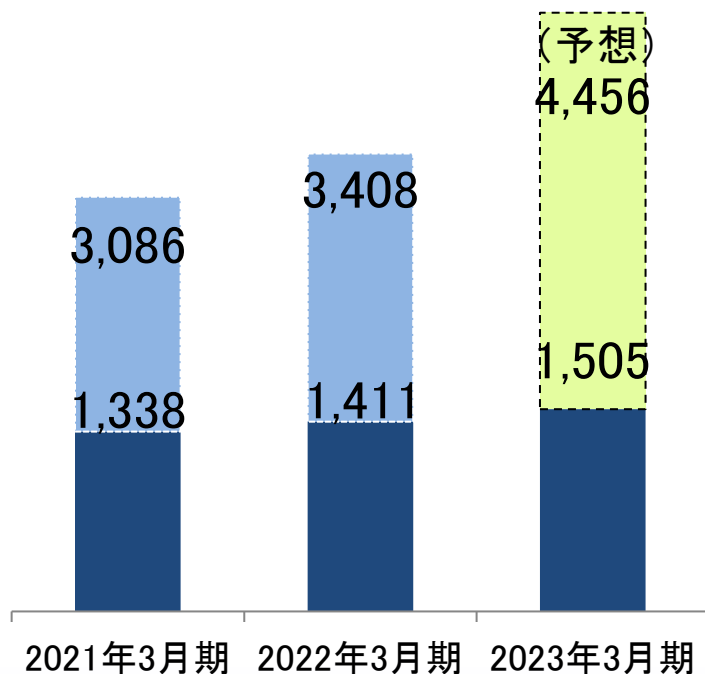


■ 研究開発費・設備投資・減価償却費

(百万円)

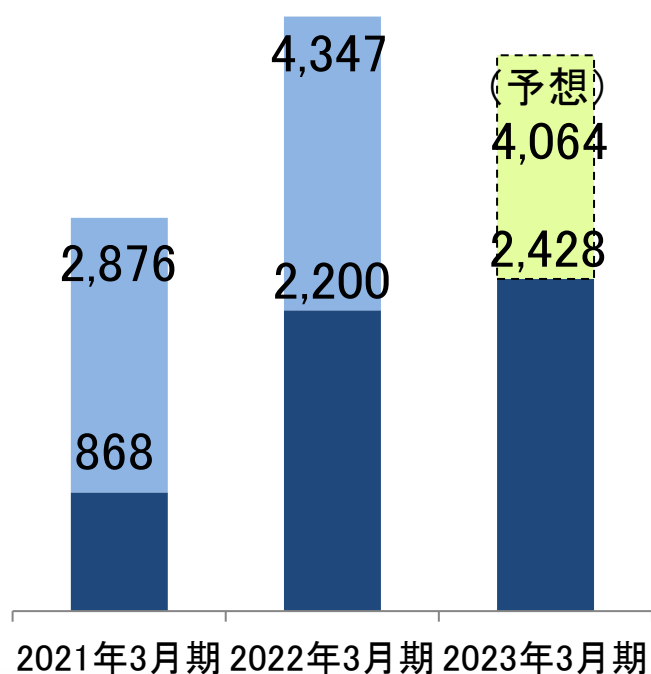
研究開発費

■ 第2四半期累計 ■ 通期



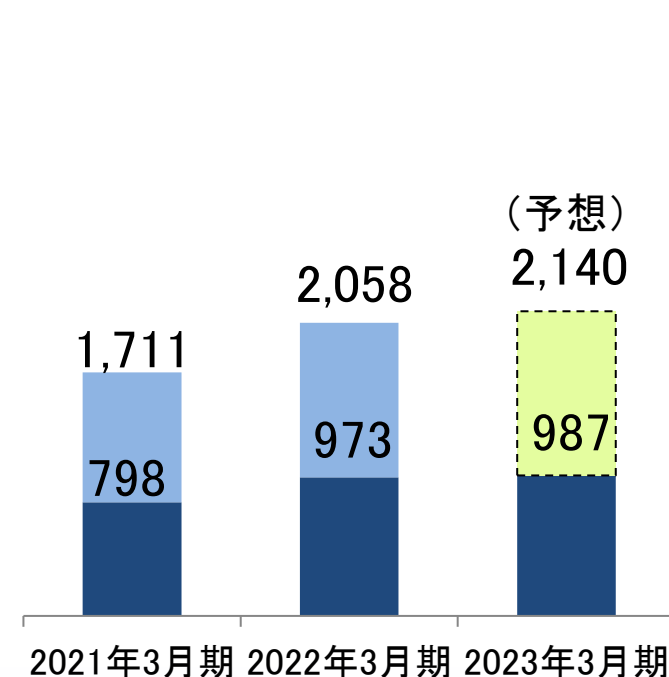
設備投資

■ 第2四半期累計 ■ 通期



減価償却費

■ 第2四半期累計 ■ 通期



- 研究開発費：主に継続している各種検査装置の委託研究費
- 減価償却費：新研究棟稼働に伴う増加

■ 配当金

2023年3月期年間配当予想 *9月20日上方修正

➤ 1株当たり35円から**13円増額**し、年間配当48円

(円)

配当予想	中間実績	期末	年間	配当性向
(期首予想)	24 (17)	24 (18)	48 (35)	30.6%

株主還元方針

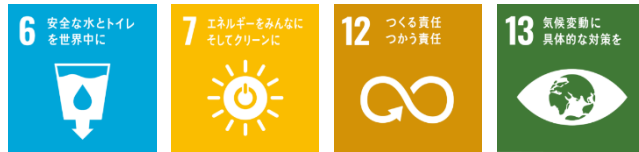
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。

具体的には連結配当性向30%以上を目標としております。

■ サステナビリティ経営の推進

地球環境と調和した事業活動

- 気候変動への対応
- 循環型社会への貢献



人を活かした活力ある企業

- 人権・多様性の尊重
- 従業員エンゲージメントと人財育成
- 健康増進・安全衛生



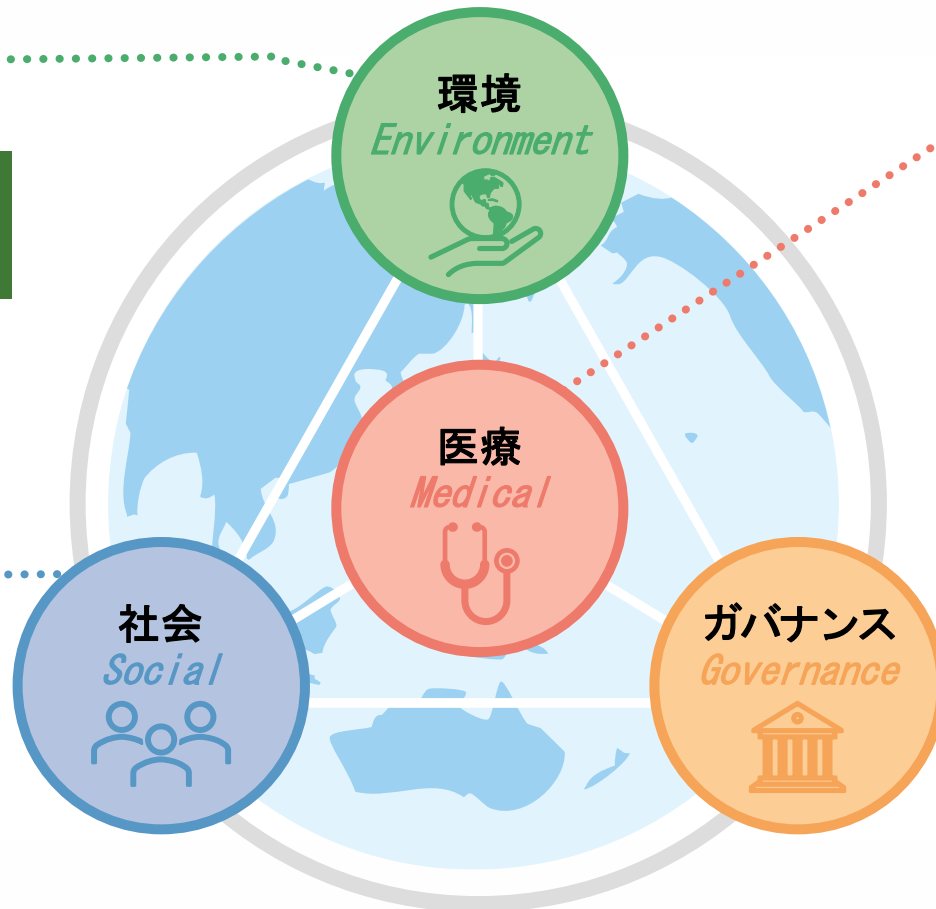
世界中の人々の健康で豊かな生活への貢献

- 医療へのアクセス向上
- 医療課題の解決
- 品質の追求と持続可能なサプライチェーン



持続的成長を支える組織基盤

- 透明で健全なガバナンスの実現
- コンプライアンスと腐敗防止の徹底
- リスクマネジメントの確立



サステナビリティ: <https://www.eiken.co.jp/sustainability/>

マテリアリティとKPI一覧表: https://www.eiken.co.jp/uploads/Materialities&KPIs_220720jp.pdf

Saving Your Health

世界的な臨床検査薬企業として、人々の健康を守り続ける

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

本資料は、一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。

